



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol.46
2022.5.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

地域医療連携室室長に就任して

地域医療連携室
室長
小根山隆浩



4月より日本歯科大学新潟病院の地域医療連携室室長に就任しました小根山です。昨年10月に新潟病院（歯科）と医科病院が統合され、名称も「地域歯科医療支援室」から「地域医療連携室」に変更になりました。

少し自己紹介させていただきます。私は口腔外科に所属し、診療は口腔がんを中心に口腔外科全般、また、特殊外来として歯科アレルギー治療外来医長などをしております。以前は口腔外科医長、新潟病院看護科長、診療報酬支払基金審査員なども行っており、東日本大震災では検死活動にも参加させていただきました。これらの経験を地域医療連携に活かせればと考えております。

昨今、地域包括ケアと盛んに言われておりますが、医科歯科連携や多職種との連携も理想通りにはできていないのではないのでしょうか。連携のためには顔の見える関係が必要ですが、新型コロナウイルス感染拡大によりコミュニケーションの取りにくい状況が続いております。また、働き方改革も叫ばれており、IoT などの利用は増えましたが、仕事の効率化は進んでいないのではないのでしょうか。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻で物価が上昇し、パラジウム等のレアメタルも高騰している状況です。まさか、こんな時代になるとは誰も予想していなかったと思いますが、予想通りにいかないのが当たり前であり、その時の状況に合わせ、臨機応変に対応できる能力が要求される時代なのかもしれません。



日本歯科大学の桜

このような時代だからという訳ではありませんが、日本歯科大学新潟病院地域医療連携室も、今までと同じではなく、ニューノーマルな地域医療連携を構築していく必要があると感じております。皆様とよりよい連携が取れるよう取り組んで参りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



日本歯科大の耳鼻咽喉科診療のこれから

●新潟生命歯学部耳鼻咽喉科学
教授

佐藤雄一郎



私は2021年5月1日から日本歯科大新潟生命歯学部耳鼻咽喉科学教授を拝命しておりますが、当時の医科病院耳鼻咽喉科から診療にも携わり、2021年10月1日からの新しく統合した新潟病院でも引き続き耳鼻咽喉科診療を担当しております。

さて、今回は折角の機会ですので、当科で行っている耳鼻咽喉科診療についてご説明申し上げます。耳鼻咽喉科は一般的に頭蓋底から鎖骨近傍までの、いわゆる頭頸部領域の疾患を対象に日々診療を行っています。皆さまが耳鼻咽喉科で思い出される疾患は、中耳炎、難聴、めまい、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎（通年性や花粉症）、扁桃炎、咽頭炎などがあると思います。他にも、口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌など頭頸部癌と呼ばれる悪性疾患もありますが、当院では現時点で診断までとして治療は他院にお願いしています。それでは良性疾患を中心とした病気の説明から始めます。

- ①**中耳炎**：急性、慢性、真珠腫性中耳炎があります。急性中耳炎は外来で保存的治療が可能ですが、それ以外で手術が必要になる症例もあります。
- ②**難聴**：加齢性から突発性難聴、メニエール病など多彩です。最近のトピックスは2017年国際アルツハイマー病会議で難聴が高血圧、肥満、糖尿病とともに認知症の危険因子に挙げられたことです。難聴の対応のひとつに補聴器装用があり、今年の7月から新潟市は補聴器交付の費用に対して自治体助成が始まります。
- ③**めまい**：原因は小脳・延髄などの中枢性疾患から前庭末梢性疾患によるめまいがあります。当科では中枢性以外のめまいに対応しています。良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎、メニエール病、突発性難聴による平衡障害、自律神経障害など病態は複雑で多岐にわたります。なかには、確定診断が得られずめまい症とされるケースが多くありましたが、最近は持続性知覚性姿勢誘発めまい（PPPD）という概念が提唱され光明が差し込んでいます。さらに、近年の臨床研究、ガイドラインにより、めまい疾患の概念もすっかり整理されてきました。当科は昨年度からめまい診療の強化に着手しており、私も含めたスタッフのブラッシュアップ（佐藤がめまい相談医取得など）、めまい診療のフロー作成、診療機器の整備が進んでいます。皆さまの診療で急性、慢性のめまいでお困りの患者さんがおられましたら、是非ともご紹介をお願いします。
- ④**副鼻腔炎、アレルギー性疾患**：副鼻腔炎は急性から慢性があり、なかには歯を原因とした病態もあります。その場合は本学の特徴を生かして歯科との迅速かつシームレス

な対応が可能です。アレルギー性鼻炎も通年性から季節性（いわゆる花粉症）に分けた詳細なガイドラインの整備が進み、当科ではそこに準じた治療を心掛けています。必要に応じて耳鼻咽喉科ならではの局所処置も併用しますので自覚症状の改善に苦しんでいる方がおられましたらご紹介をお願いします。

⑤**扁桃炎、咽頭炎**：いわゆる急性炎症性疾患ですが、高熱、経口摂取の低下は外来での治療に限界があります。呼吸困難がある場合は当科で引き受けかねますが、それ以外は対応致しますので宜しくお願いします。

⑥**頸部腫瘍**：頸部腫瘍は、甲状腺、耳下腺、顎下腺の腫瘍性疾患から、頭頸部癌の所属リンパ節転移、血液疾患・細菌性・ウイルス性疾患によるものがあります。従来からの造影 CT、MRI に加え、患者さん目線の低侵襲診療を目指し頭頸部超音波診断にも力を入れています。初診時の精査で良性か悪性か一定の診断は可能です。もちろん、必要な時は穿刺吸引細胞診や切開生検も行います。首を触ったらしこりがあるので心配といった方は多かろうと存じます。ご紹介頂けると幸いです。

⑦**その他**：昨年より頭頸部診察用の最新の内視鏡を導入しました。画像も繊細で頭頸部粘膜の微小病変の診断に有用です。さらに、検査手法として modified Killian's method (Sakai et al : Laryngoscope ; 2014) を用いて下咽頭を広く展開して視認しにくい下咽頭から頸部食道の境界部まで確認しています。また、内視鏡洗浄を効率的に安全に行うためのシステム（オリンパス OER5）を病院として導入しており、いつ、誰が、どのスコープを、どの洗浄機で洗浄・消毒したか履歴を残し一連のトレーサビリティを確保しています。これは、標準的な感染対策と、今後の未知の感染症対策も視野に入れた医療安全にも有効な対策として評価できます。

最後になりますが、日本歯科大学新潟生命歯学部耳鼻咽喉科のスタッフを紹介します。私、医師佐藤雄一郎（平成3年卒）、医師倉橋崇史（平成25年卒）、検査技師塚田なおみ、桑野結香、外来看護師佐藤美千子、熊倉志都の陣容で、月曜から金曜の午前診療を行っています。そこに4月1日から、当科所属の言語聴覚士高橋圭三、理学療法士松本香好美が着任しました。これまで以上に先生方のニーズに応えられるような診療スタイルを目指しますので何卒宜しくお願いします。





見直される「歯科と食育の関連性」

●食育・健康科学講座
客員教授

中野 智子



口腔内疾患と全身疾患の関連性は高く、疾患発症には幼少期からの食事が影響することが報告されています。そして、今では歯科医療においても「食育」の知識が必要となっています。

2005年（平成17年）「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的、かつ計画的に推進すること」を目的に、食育基本法が施行されました。生活習慣病の増加により、国を挙げての食育対策が始まったのです。

2010年日本歯科医師会は、日本栄養学会と「健康増進のための食育共同宣言」を締結させ、生活習慣病改善を目的に掲げます。さらに、「小児への食のアプローチ」として、学童期の食育指導を強化しましたが、残念ながら改善できませんでした。食スタイルの多様化、食へ無関心な世代の増加、家庭内調理の半減など、私たちの食環境が世代、地域、性別格差がみられるようになり、健康管理が難しくなったからでしょう。

2016年、他の歯科大学に先駆けて「日本歯科大学新潟生命歯学部 食育・健康科学講座」が開設されました。疾患と食育の関連性について歯科医療の立場から、唾液の重要性や必須ミネラルの補充療法など基礎的・臨床的研究が行われるようになりました。

あまり周知されていませんが「食育」は、100年以上前に、日本歯科大学で始まりました。日本で最も古い歯科大学の創立者である中原市五郎先生は、

『「歯科医師は、食品の良否を鑑別する義務と責任を有し、食物に関する知識は歯科衛生学上習得すべき学問であること」とあるように歯科医療に従事する者こそが栄養や体質の改善策を論じなければなりません。』

と、歯科医療の原点を「食育」に見出されました。100年以上経ち、歯科医師国家試験問題に基礎栄養が出題され、保険診療として栄養指導が加算されるようになり、食育と歯科医療の関連が、さらに重要視されています。

2018年、これまで交流が少なかった看護・助産大学と連携を取り、「食育」による更なる改善を目標に掲げ、食育活動が始まりました。健康管理を行うには、各地の健康状態を調査し、統計を取り、それに基づいた栄養・生活指導を詳細に組まなければなりません。全身の健康は、口腔内清掃だけでなく、食生活、喫煙、睡眠など生活習慣の影響を受ける口腔内疾患のリスクファクターを共有していると推察されます。（コモンリスクファクター*）そして、コロナ感染症の流行により、歯科医療においてもこれまで以上のコモンリスクファクターの指導が必須となっています。

厚生労働省は、早期の健康改善を目標に、e-ヘルスネットという健康情報サイトが開設し、これまでのセルフケア（自己完結型健康管理）より、より具体的な詳細な情報・知識の提供が行われています。そこにも、食育と口腔内環境改善の関連性が掲げられています。

食育指導は、これまでのようなカロリー計算による総体的栄養指導だけでなく、性別、地域別、年齢別の詳細な生活指導が必要、と多様化した指導内容になっています。特に、急がれる健康改善とは、

- ① 高齢者の健康
- ② 乳幼児・学童期の健康
- ③ 妊娠期の母子健康
- ④ コロナ感染症や地震などの災害時の健康

高齢者の誤嚥性肺炎による死亡率については、歯科による訪問診療の拡充により死亡原因第3位から5位へ、と功績が残されています。

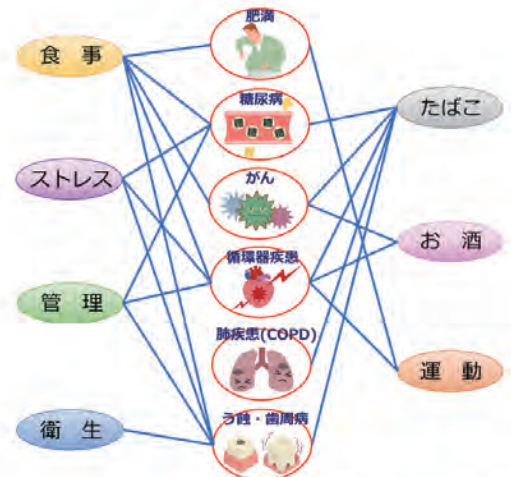
ところが、なかなか改善しないのが骨折、アレルギーなど、低年齢層の健康問題です。この問題については、胎児期の母体環境（妊娠性糖尿病）から始まっており、母子の過剰栄養と栄養不足の両立が課題となっています。ただ、この重要な妊娠期には、歯科との連携が少なくなる時期でもあります。

そして、これまで予想もしなかったコロナ感染症の流行により、世界中の食育の常識は大きく変わりました。これまでの新鮮で有機な食材よりも、保存性が高く使い勝手のいい（ローリングストック）という概念に変わったのです。食育・健康科学講座も、災害時のローリングストック普及のために、穀物保存粥を監修し、防災に取り組んでいます。

平常時と災害時の区別がつかない現代は、食品そのものの栄養価だけでなく、保存剤など食品中の化学物質など、健康を阻害する栄養素や因子など新たな問題が予想されます。



「噛むから始まる食育」歯科領域ならではの食育と口腔内環境の関連性は、今だからこそ必要とされている知識と言えます。改めて中原先生の教えに戻り、歯科大学ならではの「食育」の構築を行い、地域医療へ貢献を始めなければならない、と考えます。



(Sheihamら, Community Dent Oral Epidemiol, 2000より改変)

● コモンリスクファクター



新潟病院 主な診療スタッフ

＜病院長＞山口 晃 ＜副院長＞大越 章吾、寺田 員人、佐藤 聡、戸谷 収二

●診療科

診療科	科 長	医 長
総合診療科	海老原 隆	関 秀明 水橋 亮
口腔外科	戸谷 収二	小林英三郎
歯科麻酔・全身管理科	大橋 誠	—
小児歯科	三瓶 伸也	—
矯正歯科	小林さくら子	—
放射線科	小椋 一朗	—
訪問歯科口腔ケア科	白野 美和	—
口腔インプラント科	廣安 一彦	—
内科	大越 章吾	—
外科	大竹 雅広	—
耳鼻咽喉科	佐藤雄一郎	—

●特殊外来

特殊外来	特殊外来医長
白い歯外来	海老原 隆
スポーツ歯科外来	渥美陽二郎
いき息さわやか外来	高塩 智子
あごの関節・歯ぎしり外来	水橋 史
口のかわき治療外来	戸谷 収二
歯科アレルギー治療外来	小根山隆浩
歯科鎮静リラックス外来	大橋 誠
顎のかたち・咬み合わせ外来	水谷 太尊
M R O N J 外来	小林英三郎
歯の細胞バンク外来	小林英三郎
禁煙外来	大越 章吾

●センター

センター	センター長
長寿医歯連携医療センター	大越 章吾
障害児・者歯科センター	三瓶 伸也
睡眠歯科センター	河野 正己
口腔ケア機能管理センター	吉岡 裕雄

●室 長

室 長
地域医療連携室 小根山隆浩

■ 地域医療連携室よりお知らせ

平素より患者様のご紹介等につきましては、諸先生方には格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、4月より本院の地域医療連携室に新しく MSW が加わりました。新社会人のため現在はまだ指導中ではありますが、今後の活躍を期待しているところです。最初は不慣れなこともあり、ご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、ご容赦いただければ幸いです。

新室長の下、看護師・MSW・事務の3名でこれまで以上に地域医療連携業務に努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室

TEL/025-211-8228(歯科)/025-211-8257(医科)
FAX/025-267-1546

地域医療連携室

室 長/小根山隆浩
看護師/神田 明
MSW/山崎佑花子
事 務/本間 未来

編集後記

■新年度に入りました。みなさんにおかれましては、如何お過ごしでしょうか。制限のないゴールデンウィークも過ぎ、普段の日常に戻ることを期待します。これから過ごしやすい季節に入りますし、レジャーでも楽しみたいですね。(靖)



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER



発行日/令和4年5月1日 発行人/山口 晃
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(連携室直通)